

令和5年度 南信州喬木村創生有識者会議 有識者評価シート（令和4年度事業分）

基本目標 1

基本目標 1	数値目標_基本目標の達成度合いを測る数値		単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度 (参考)	R4評価 評価シートより		
安定した雇用を創出する	○ 村内企業数 (商工会把握数)		社(者)	253	244	245				265	単年度	92%	△		
	○ 新規就農者数 5年間の延べ人数		人	11 (H27~R1)	2	7 (R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	(R3~R7)	15	累計	117%	◎		
	各年度目標値 (最終目標を按分)				3	6	9	12	15						
	基本目標達成に向けた施策		KPI_重要業績評価指標		単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度	達成状況
	(1) 農業の競争力の強化		施設栽培面積		ha	7.2	7.4	7.6				8.0	累計	100%	◎
	各年度目標値 (最終目標を按分)						7.5	7.6	7.7	7.8	8.0				
	(2) 新規就農者支援		新規就農相談件数		件	8	19	20				8	単年度	250%	◎
	(3) 地域産業の競争力強化		製造品出荷額等		億円	67	63	60				70	単年度	86%	×
	(4) 産業振興と人材育成の拠点の活用 (広域連携)		工業技術試験研究所利用件数 目標値は5年間の累計		件	843	726	1,430 (R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	広域でR6までの目標を設定しているためR7数値なし	3,400	累計	84%	△
			信州大学共同研究講座学位取得者数 目標値は5年間の累計		人	6	4	9 (R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)		24	累計	75%	△
		各年度目標値 (最終目標を按分)				6	12	18	24						
(5) 企業立地促進		誘致企業及び起業数 目標値は5年間の累計		社(者)	3	1	3 (R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	(R3~R7)	18	累計	42%	×	
		各年度目標値 (最終目標を按分)				3.6	7.2	10.8	14.4	18					
事業評価	評価レベル			評価基準								評価			
	○ 地方創生に非常に効果的であった			全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合								1			
	○ 地方創生に相当程度効果があった			一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合								2			
	○ 地方創生に効果があった			KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合								5			
	○ 地方創生に対して効果がなかった			KPIの実績値が基準値よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合								0			
-			評価なし								7				
1	第一次産業の就農者が増加して効果が出てきていると思う。残念なことは荒廃農地が減少しているわけではないので、さらなる施設栽培面積の増加の取り組みが必要。														
2	新型コロナウイルスの影響があるのか、第二、第三次産業の活性化が進まないような気がするので、企業誘致等をさらに進める必要があると思う。														
3	企業誘致に力を入れてほしい。														
4	村内企業数が基準値に対して減少していることや、企業誘致が進まないことについて、根本的な要因は何かといった具体的な把握が必要。														
5	広域連携で行っているエスバードの取組について、そこで学んだ人材が将来的に村内で活躍できる場があるのか疑問がある。														
6	飲食店がオープンしても継続が難しいケースがある。KPIの指標に一時的な「起業数」を設けるより、継続的な支援に重点を置く必要があるのではないか。														
7	JAが主体となっている担い手研修制度の利用者の中に毎年喬木村への移住就農希望者がいることは、この村の住みやすさや農業をする環境の良さが関係していると思う。また、当村は農業女子も増加していることも着目すべきである。村では仲間とともに食育活動にも積極的に参加している方も多い。														
8	村内では空きを待つほど柿畑を欲しい人が増加している。これは市田柿のブランド力向上とともに市田柿栽培が高収入に結びつく安定的な品目として浸透してきたことを示している。これまで以上に栽培希望者の農地相談、営農相談にしっかりと応えていけるJAと行政の連携が必要。														
9	ドローン農業散布の取組を喬木グランドファームが引き受けたことがスマート農業への挑戦に大きくつながっている。将来に向け、当村において安定的で強い農業が維持拡大されることが期待できる。														
10	農業を始めたいという方が増えている点が素晴らしい。行政にはさらなる魅力発信を期待したい。														
11	製造品出荷額はインフレ率を考慮して比較できているのか。そうでなければ今後目標値の設定を改める必要があるのではないか。														
12	各産業の中国依存から国内回帰といわれているが、その変化は地域の特色（産業構造等）に影響があるのか。また高齢化が進んでいるが、土地を引き継ぐ次世代が身近に存在しない方が多いため、土地の処分や所有の考え方について、住民の意識改革が必要ではないか。														
13	KPIの評価は比較対象がないため評価しにくい。														
14	農業用ハウス等の設定、栽培面積は増加しているとのことだが、農地（果樹栽培、水田）等、特に伊久間原、富田、城原地区は後継者不足や高齢化が進んでいる。今後どのように考えているのか。外部からの新規就農者を取り入れることができればよい。														

令和5年度 南信州喬木村創生有識者会議 有識者評価シート（令和4年度事業分）

基本目標2

基本目標2	数値目標__基本目標の達成度合いを測る数値		単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度 (参考)	R4評価 評価シートより		
つながりを築き、新しい人の流れをつくる	○ 社会増減 直近5年間の延べ人数		人	△64 (H27~R1)	△38 (R3)	△9 (R3~R4) 29 (R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	(R3~R7)	5 (R3~R7)	累計	90%	○		
	各年度目標値 (最終目標を按分)				△20	△10	0	10	25						
	基本目標達成に向けた施策		KPI__重要業績評価指標		単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度	達成状況
	(1) 移住希望者への支援		移住・二地域居住相談件数		件	16	28	52 (R3~R4) 27 (R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	(R3~R7)	75	累計	173%	◎
	各年度目標値 (最終目標を按分)				15	15	15	15	15						
	(2) 関係人口創出への取組		喬木ふるさとnet会員数		人	290	304	289				400	単年度	72%	×
			喬木ふるさと会会員数		人	2,046	1,943	1,926				2,100	単年度	92%	×
	(3) 地域プロモーションの推進		喬木村ホームページアクセス数		件	115,758	132,262	115,709				150,000	単年度	77%	△
	(4) 教育環境の魅力化の推進		学校HP及びICT活用教育発信HPのアクセス数		件	30,800	31,745	38,722				200,000	単年度	19%	×

事業評価	評価レベル	評価基準	評価
	○ 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合	0
○ 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合	3	
○ 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合	5	
○ 地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が基準値よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合	1	
-	評価なし	6	
1	移住相談や住宅新築補助の取組や集合住宅の建設事業についても効果があり、人口減少の歯止めにも効果が表れているのではないかと感じる。		
2	喬木村HPアクセス数や学校HP及びICT活用教育発信HPのアクセス数など、目標と設定している数値が高いので達成状況は思わしくないが、少しずつ効果は出てきているのではないかと感じる。		
3	様々な施策を実施していることは評価できる。		
4	リニア開通を見据えて都会からの人口流入を目指していると思うが、南信地域の多くの市町村と同様の施策では喬木の優位性が発揮できない。他より一歩先を行く施策が必要。		
5	サテライトオフィスの建設により、どの位の人口流入を目論んでいるか気になる。		
6	クラソ喬木は、施設名を公募したことやその結果びつりの名前に決定したこともあり事業として成功だったと思う。当村の子育て世代定住促進のシンボルとなる事業だと思う。		
7	伝統的な工芸品である阿島傘は観賞用ではなく実用できるものであってほしい。基本の素材で普通に使うものとして存在させてもらいたい。		
8	新築、または空き家を活用するなどして移住体験住宅を作り、実際に喬木村での生活を体験してもらおうことができるといいと思う。		
9	喬木村の強みの一つに飯田市、松川町、高森町までの距離が近いことがある。現在でもそうだが、今まで以上に近隣市町村の職場に近いベッドタウンとしての魅力を広げていくとよいと思う。		
10	村内や近隣市町村に働くことができる場所があることが人口の安定には重要である。		
11	ICT活用教育も全国的に進み喬木村の先進性は薄くなりつつある。現在も各世代ごとに活用率を上昇させる取組をしているため、そのような取組を評価できる指標があってもよいのではないかと感じる。		
12	他市町村のKPIと喬木村のレベルを比較できれば評価がしやすいのではないかと感じる。		
13	人口減少が進む昨今において、移住者が増えることが今後の喬木村の発展に大きく関わってくると思う。空き家が増えている現在、都市部からの移住者が増える施策が必要だと思う。		

令和5年度 南信州喬木村創生有識者会議 有識者評価シート（令和4年度事業分）

基本目標3

基本目標3	数値目標_基本目標の達成度合いを測る数値		単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度 (参考)	R4評価 評価シートより		
結婚・妊娠・出産・子育て環境を整える希望を	○ 合計特殊出生率 5年間(R3~R7年度) 平均		人	1.74 (H27~R1)	1.78 (H29~R3)	1.66 (H30~R4)	(R1~R5)	(R2~R6)	(R3~R7)	1.80 (R3~R7)	平均	92%	△		
	基本目標達成に向けた施策		KPI_重要業績評価指標		単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度	達成状況
	(1) 出会い、結婚の希望をかなえるための支援	喬木村に住所がある方の婚姻数 5年間(R3~R7年度) 平均	組	26.4 (H27~R1)	26.2 (H29~R3)	25.6 (H30~R4)	(R1~R5)	(R2~R6)	(R3~R7)	30 (R3~R7)	平均	85%	×		
	(2) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	出生数	人	47	26	27	(R5)	(R6)	(R5)	40	単年度	68%	×		
	(3) 子ども・子育て世代の負担軽減支援	15歳未満人口	人	828	766	740	(R5)	(R6)	(R5)	738	単年度	95%	×		
			各年度目標値 (最終目標を按分)		798	783	768	753	738						
(4) 学力向上の推進	中学3年生の英検3級以上保有率	%	22.4	39.1	19.4	(R5)	(R6)	(R5)	40.0	単年度	49%	×			
		全国学力・学習状況調査で、全国平均を上回った教科数		教科	3	1	4	(R5)	(R6)	(R5)	5	単年度	80%	○	
事業評価	評価レベル			評価基準									評価		
	○ 地方創生に非常に効果的であった			全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合									0		
	○ 地方創生に相当程度効果があった			一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合									1		
	○ 地方創生に効果があった			KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合									3		
	○ 地方創生に対して効果がなかった			KPIの実績値が基準値よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合									4		
-			評価なし									7			
1	婚姻や出生数などは個人的な考え方に左右されるため施策の効果がすぐに表れないのではないかと。地道な努力を続けるしかないと思う。														
2	施策が「子ども・子育て世代の負担軽減支援」であるのに対して、KPIが「15歳未満人口」であるが、評価指標として判断が難しいと思う。														
3	価値観が多様化するなか、施策として出産を促し結果に結びつけるの難しいと思う。														
4	子どもの学力向上への取組は今後も強力に推し進めていただきたい。このことが喬木村で子育てをしたいという動機づけになるかもしれない。														
5	人口が減少することは、地域にとって良くないことばかりではないと思う。出生率はすぐには改善されないため、人口減少の良い面を知ってもらおう広報をしていく時期にきていると思う。														
6	そもそも若者が少ないため、リニア開通を見据え移住者を呼び込むことが一番大切だと思う。														

令和5年度 南信州喬木村創生有識者会議 有識者評価シート（令和4年度事業分）

基本目標4

基本目標4	数値目標__基本目標の達成度合いを測る数値		単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度 (参考)	R4評価 評価シートより		
地域のできる力を時代に合った暮らしを暮らすこと	○ 喬木村に住みたいと思う人の割合 村民意識調査		%	85.1	85.8	80.6				86.0%以上	単年度	94%	×		
	基本目標達成に向けた施策		KPI__重要業績評価指標		単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度	達成状況
	(1) 小さな拠点の形成促進と交通ネットワークの確保等	小さな拠点整備計画の策定に向けた検討委員会等の組織数		組織	1	1	1				1	単年度	100%	○	
		コミュニティバス利用者数		人	2,211	1,801	1,526				2,300	単年度	66%	×	
	(2) 定住支援の促進	社会増減 直近5年間の延べ人数		人	△64 (H27~R1)	△38 (R3)	△9 (R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	(R3~R7)	5 (R3~R7)	累計	90%	○	
		各年度目標値 (最終目標を按分)				△20	△10	0	10	25					
		定住支援に係る事業の実績数		件	27	47	53				35	単年度	151%	◎	
	(3) 村民主体の地域防災の環境整備	消防団員数		人	170	165	158				180	単年度	88%	×	
		地区防災計画策定		地区	0	0	0 (R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	(R3~R7)	18	累計	0%	×	
		各年度目標値 (最終目標を按分)				3.6	7.2	10.8	14.4	18					
	(4) 村民の安全安心の確保	犯罪認知件数		件	23	6	9				20	単年度	222%	◎	
	(5) 既存ストックの点検・修繕	橋梁・トンネル修繕数		件	4	1	3 (R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	(R3~R7)	11 (R3~R7)	累計	68%	○	
		各年度目標値 (最終目標を按分)				2.2	4.4	6.6	8.8	11					
	(6) 村民が元気に暮らすことができる環境づくり	週1回以上スポーツをしている人の割合 (村民意識調査)		%	35.6	37.7	42.7				45.0	単年度	95%	△	
元気高齢者の割合 (75歳以上で要介護認定を受けていない割合)		%	75.8	73.5	72.5				77.0	単年度	94%	×			
(7) 活力ある地域づくりの促進	NPO加入団体数		団体	19	19	21				19	単年度	111%	◎		
	ボランティアセンター登録者数		人	781	746	729				800	単年度	91%	×		

	評価レベル	評価基準	評価
事業評価	○ 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合	0
	○ 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合	2
	○ 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合	7
	○ 地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が基準値よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合	0
	-	評価なし	6
1	空き家対策、地区サロン事業などは特に成果出ていると感じる。また、KPIは達成できていないがコミュニティバスの運行は地域で暮らす環境づくり等に必要だと思う。		
2	村民主体の地域防災の観点から、特に地域に欠かせない消防団員が確保できていないことが残念である。		
3	数値目標の評価が「×」になっているが、割合でみた達成度は目標値に近い「△」でもよいと思う。		
4	ほとんどの事業を実施しているのにも関わらず、数値目標の評価が「×」になるのは不適切だと思う。		
5	新規定住者と地元民とが交流する機会を設けることも必要だと思う。		
6	月1回「ノーテレビ、ノーゲームデー」を設け、一家団らんを呼びかけていることは良い取り組みだと思う。同様に月1回日曜の朝か夕方に親子で30分程度家の周りを歩いてみたり、自然を肌で感じながら四季折々の風や色を感じ親子で会話してみたりするなど、子どもの頃から村の風景を目に焼き付けるような取り組みを行うと良いと思う。		
7	空き家が増えている中、村の空き家や活用補助金は良い制度だと思う。この補助金に対して空き家所有者はどう考えているか（空き家活用の誘因となるか）意見を聞いてみたい。		
8	特に生産年齢人口の方を中心に、地域内で知り合いとなってもらい創出を各地区で主体的に実施するなど、地域住民間で助け合いの精神の醸成を様々な場面で行ってほしい。また、各世代の意見を村政に吸い上げ、村民が自己実現できる村づくりを行ってほしい。		
9	若者が住みやすい村づくりが大切だと思う。		